

第 10 期武蔵野市環境市民会議（第 6 回） 会議要録

日時 平成 30 年 10 月 4 日（木） 18 時 30 分開会
 場所 武蔵野市役所 813 会議室
 出席者 委員 10 名、事務局（環境政策課） 4 名
 （委員：大江委員長、鈴木副委員長、朝日委員、新井委員、千葉委員、白田委員、幕田委員、松村委員、三浦委員、山村委員、木村委員）
 内容 ①平成 29 年度版「武蔵野市の環境保全」—環境施策に関する年次報告書—について
 ②第 5 回環境市民会議実地研修報告
 ③エネルギー地産地消プロジェクトについて
 ④エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方（案）について
 ⑤今後の会議内容について

①平成 29 年度版「武蔵野市の環境保全」—環境施策に関する年次報告書—について

発言者	要旨
委員長	事務局より、報告をお願いします。
事務局	（平成 29 年度版「武蔵野市の環境保全」—環境施策に関する年次報告書—（以下、年次報告書）について以下の内容を説明した。） ・年次報告書は武蔵野市の環境基本計画に基づき、市の施策・事業の成果をまとめている。 ・武蔵野市では平成 29 年度より独自の環境マネジメントシステム（EMS）をスタートさせており、EMS 事業と環境基本計画の事業は連動している。年次報告書では EMS を通じて環境基本計画の進捗管理を行っている。 ・年次報告書の第 1 章では、環境基本計画の事業の成果を掲載しており、第 2 章では、事業所としての市の環境への取り組み（資源の省エネルギー化など）について記載されている。
委員長	年次報告書について環境市民会議でどのように評価・議論すればよいのか。
事務局	意見や感想をいただきたい。
委員長	内容が非常に多岐にわたるので、すべての項目について議論することはできない。そのため、次年度以降の年次報告書作成に関して建設的な意見を、委員よりいただきたい。
委員	年次報告書の環境方針 1「市民・事業者・行政（市）の自発的な行動を促す取り組みを進めます～環境配慮行動のしくみづくり～」の目的を考慮すると、市の施策・事業を実施することで、市民の環境に対する認識や行動がどのように変わったか、という視点で把握し記述する必要があると思う。 そのために毎年、定期的に環境に対する市民の意識調査をすべきではないか。
委員長	現在、生物生息調査など実施されているようであるが、この環境方針に関する定期的な調査はあるか。
事務局	定期的な調査は行っていない。

委員長	「何回事業を行った」という定量的な評価ではないため、意識変化や行動変化は把握が難しい。また、時系列的に把握することは今後の課題かと思う。
委員	本市では、EMSによる評価を含めた年次報告書を作成することが今回初めてである。現状、事業の成果を示すことにとどまっているが、次期（第5期）環境基本計画では、大胆に行動変容についても考えていきたい。平成32年度に完成する予定のエコプラザ（仮称）での事業実施の効果として、市民の行動変容などを目指していく予定である。
委員長	年次報告書に評価を組み込んだことは初めてか。
委員	初めてである。市内部の環境管理委員会を開き、今回の評価について議論をした。
委員長	市として、年次報告書について環境市民会議に何をしてほしいのか、という点がはっきりしたらよいのではないか。
委員	その評価検証の枠組みがまだ明確になっていないので、第5期環境基本計画では枠組みも作っていきたい。
副委員長	年次報告書のフォーマットはあまり変更しないほうが良いと思う。 課題となっているところを網掛けにする等、目立たせることが必要かと思う。 修正点に気付いたのだが、年次報告書70頁に「降雨高度」とあるが「降雨強度」の間違いではないか。 雨水の流入回数が少ないが、その回数を増やすための取組みに関して、具体的な記述も記載して良いかと思う。
委員	現在は流入を調整している最中である。以前は流入口に落ち葉が入ってしまい、水がうまく流れないことがあった。そのため、落ち葉の流入防止対策を行っている。
委員長	各課の評価について、別途まとめが出されるとよいかと思う。 年次報告書で掲載されている数字がどのような理由で変化しているのか、そしてどのように課題解決すべきかなど、課題と目標があわせて記載されている方が良い。 すべての項目ではなく、代表的なものをいくつかピックアップして課題と目標をあわせて記載しても良いのではないか。
委員	生物生息調査と聞いたが、生物とは動植物のことか。
事務局	そのとおりである。
委員	武蔵野市は小さな公園が多いので、そのような資源を生物生息調査に活かせばよいと思う。
事務局	現在市で行っている調査は、大きな公園をいくつか選定し調査を行っている。 委員長の発言にある各課のまとめ等についても、次年度わかりやすい年次報告書となるように検討していきたい。

②第5回環境市民会議実地研修報告

発言者	要旨
委員長	事務局より報告をお願いします。
事務局	（実地研修について以下の報告を行う。） ・視察先に関する概要及びその特徴

	・実地研修後のアンケート集計結果
委員	<p>実地研修では、発電過程や電力消費の現場を知ることができ、とてもよい研修であった。川崎火力発電所では、LNGを使用し熱効率 61%を実現したことや、川崎スチームネットを通じて近隣へ蒸気供給を行っており、二酸化炭素削減に貢献していることが分かった。</p> <p>藤沢SSTについて、日本でも地域全体がエコタウンとなっている場所があることを初めて知り、驚いた。ドイツフライブルク市のトラム（路面電車のようなもの）を中心とした自動車に依存しないまちづくりの事例は聞いたことがあるが、日本で街ぐるみで取り組んでいることを初めて知った。</p> <p>藤沢SSTでは、すべての住宅 1000 世帯 3000 人くらいに太陽光発電設備と蓄電池が備え付けられていると聞き、驚いた。街を作るにあたっては「タウンデザインとコミュニティ」という将来 100 年にわたる、デザインに関するガイドラインを作成され、住民のアイデアをタウンマネジメントの企業が集約していくことが書かれていた。また、そのガイドラインの中で具体的な数値を掲載しているのが分かりやすく、例えば「二酸化炭素を街全体で 70%削減」や「非常時のライフラインを 3 日間確保する」など書いてあった。また、街全体での発電、エネファームと連帯したエネルギーの貯蓄、HEMSによる賢いマネジメント、余剰電力の売電、そして見える化。以上のような一連の流れが明記してあり、すごいと思った。</p> <p>企業同士が協働することで多様な価値観を作り上げ、街の魅力を作ることはすごいと思った。</p> <p>武蔵野市とは条件や土地価格等違うので同じようにできないかもしれないが、市には市民参加を促すことを大切にしてほしい。以前、目黒区で環境ナビゲーターという活動をしており、現在でも講演会を企画している。そこでは行政という括りを外して、エコライフ目黒推進協会などから応援してもらっているので、武蔵野市でも市民が取り組む活動について支援して欲しいと思った。</p>
委員	火力発電所を設置するにあたって、環境アセスメントが大変だったと思うがその課題解決はうまくいったのか。
委員	東京ガスでも、川崎に火力発電所を持っているので相当大変であった。
副委員長	経済産業省の審議会で環境アセスメントを担当している。アセスメントとしては4段階あり、1つの段階をこなすために1年間くらいかかる。生態系や騒音・振動などすべての項目について考察する。住民の意見や行政の意見や様々な意見を踏まえてアセスメントが行われるため、火力発電所のアセスメントはかなり大変であると考えられる。
<補足> 東京電力への 後日確認事項	<p>川崎は過去の公害の歴史に鑑みて、大気環境対策により一層努めることが求められ、発電所運営に支障を来さない範囲でNOx（窒素酸化物）の排出を低減した。</p> <p>また、アセスメントを実施する中で、「コチドリ」の営巣が確認されたため、急遽、裸地環境等の整備を追加して行った。</p> <p>（注）委員の質問が東京電力川崎火力発電所に関する内容であったため補足。</p>
委員長	北海道胆振東部地震で火力発電所がブラックアウトしたときには、再生可能エネルギー

	一の殆どを系統電力に繋いでいたため、再生エネルギーの活用ができなかったと聞いている。再生エネルギーを系統に繋ぎさえすればよいというものではなく、地域によっては地産地消の活用ができる工夫も重要であると言える。
--	---

③エネルギー地産地消プロジェクトについて

発言者	要旨
事務局	(エネルギー地産地消プロジェクトについて以下の説明。) <ul style="list-style-type: none"> ・クリーンセンターで生まれる電気を蓄電池に貯め、電力が必要な時間帯に貯めた電気が使えるように融通することを計画している。 ・クリーンセンターを中心とした一定のエリア内で効率的にエネルギー利活用をすることで、二酸化炭素排出量の削減のみならず、電力購入費用減少による歳出減少などが見込まれる。
委員	補足すると、実質的には金額ベースで1億円程度の電気を生み出している計算である。
委員	中間期に比べて、夏場の発電量が少ないのはなぜか。
委員	夏場はごみの質が悪いことが影響し発電量が下がっている。例えるならば、夏場のごみはスイカの皮が入るなど、水分量が多いことがイメージできる。 ごみからの発電効率は約20%である。川崎火力発電所と比較すれば低いが、ごみ焼却場としては高い値である。
事務局	クリーンセンターで生み出したエネルギーは、蒸気として出ていく部分もある。蒸気の効率は14%であるため、全体の発電効率は34%程度である。

④エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方（案）について

発言者	要旨
委員	(エコプラザ（仮称）の整備について以下の点を説明) <ul style="list-style-type: none"> ・クリーンセンターと一体的に環境啓発を行う環境啓発施設であること。 ・武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議検討のまとめを基本として、市の基本的な考え方（案）を作成した。 ・改修費用やエコプラザ（仮称）の防災機能、パブリックコメントについて（意見公募については10月9日に締切っている）。
委員	運営について。開設から5年を目途にして委託するようになるのか。
委員	すべて委託すると市の方針と異なってしまうことが生じると思うので、市としては、何かしら関わっていく予定である。 お願いできることは市民団体などをお願いをして、市民と市と協力して施設を作り上げていきたい。
委員	武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議検討のまとめ11頁（3）に書かれている内容を見ると、「市民科学」という言葉を使っても良いのではないかと。
委員	武蔵野市は市民の方に力がある方が多いので、積極的に関わっていただきたい。
委員	武蔵野市では仕事を定年退職した人が、活発に活動しているので、そのような人たち

	が関われる場があると良いと思う。
副委員長	多様な環境問題を受け止められる場所であることが大切。本質的なことを言えば、エコプラザ（仮称）を検討している場所は、旧清掃工場で「ごみ処理施設」として都市計画決定されている場所である。そのようなごみ処理場の中心地にこのような施設を置いたことに意義があると考えている。

⑤今後の会議内容について

発言者	要旨
委員長	今後の会議内容について事務局より報告をお願いします。
事務局	（今後の会議内容・スケジュールについて資料2の内容を説明） <ul style="list-style-type: none"> ・次回はエネルギー政策の課題整理 ・環境部内の様々な分野の内容を取扱い、3月には玉川上水の見学会を予定 ・来年の6月以降では第5期環境基本計画の内容の議論へと入っていく。
委員長	以上で、今回の会議は終了とする。